



NO. 884
 発行
 2016年
 6月20日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 上石 昌彦
 編集責任者
 教 宣 部

国労が見える運動を

第10回全国組織強化・
 拡大経験交流集会の開催

国労本部は、第10回全国組織強化・拡大経験交流集会を6月5日～6日、箱根湯本「ホテル開雲」で開催されました。
 全国から123名が参加し2日間、分散会などで活動報告や交流を深めました。

全国統一って聞く

14時に開会、国労本部 井村総財部長の司会あいさつでスタートしました。井村総財部長は「交流集会は10回を迎えた。エリア、地本などで議論して



きた、さまざまな意見を踏まえ、全国統一して開催することになった。全国



大会で全体が統一した交流集会が開催できないかと思いが出されていた。全国の拡大行動の取り組みなど意見交換を図っていく。全体の意思統一を図る」とありました。
 その後、毎日新聞記者の東海林智さんからいま、労働組合を語る「特別講演」がありました。

坂口委員長 あいさつ 分かち合う 交流会に



2016年春闘は、各地方や中央行動など取り組みを展開し闘ってきた。暮らしが楽にならない、賃上げが厳しい状況になっている。

世界的にどうか・安倍政権は、リーマンショック以来の厳しい状況になっていると言っている。アベノミクス～消費税増税が延期になった。その財源をどこから持ってくるのか。

春闘回答～貨物・四国・北海道がベア0になっている。将来の生活を改善していく。闘う根拠を明確にすること・地域共闘を強化していく。

政治情勢～安倍内閣に対し、戦争法の廃止の闘いは総がかり行動が展開している。憲法を守る闘いを広める。社会を変えることになっていく。女性の組織化を進める。同一労働同一賃金になっていない。

原発の廃止、福島、熊本の状況について早期の復旧・復興をめざす。

JR貨物～青函トンネルの利用状況・荷主への負担が大きい。職場では事故が多発している。分会活動の再構築をする。問題の指摘をして職場環境を改善していくこと。

新採者へ国労加入を訴えていくこと。ひとりではない、みんながそこにいる。全国大会で拡大の報告が聞けるように、そして参議院選挙の勝利をめざす。

みんなが分かち合う交流集会にしていこう。



活動報告と 交流を深める



分散会は9ヶ所に分かれて各分
 散会では10数名が交流を深めまし
 た。

分散会で 報告・意見

第7分散会に参加をしました。二日間にわたっての活動報告や意見についてまとめました。ぜひ参考にできればと思います。
 ○職場で国労の活動が見えないと駄目だ。国労は普通に運動していても貨物労組との違いが出た。仕事における信頼関係など相手に感じられる活動をしていく。
 ●他労組へも機関紙、チラシを配布する。
 ○若者と近い位置にいて取り組む。職場での不満を聞くことを大切にしている。小さな不満を吸い上げる。



○他労組の青年に、賃金や仕事の内容について話をしていく。職場の実態について、要員の問題や年休取得など訴えていくことよってつながりもてる。他労組青年は、国労加入ができないが国労を慕っている。

●契約社員の雇止めから国労加入につながった。新採者のかかわりで職場では署名など8割くらい協力してくれる。

○関連会社から5月に2名、国労加入した。契約社員に雇止めの前に話をし国労加入を訴えた。



国労加入した青年の声

職場の問題を取り上げる国労のスタイルだと感じた

○職場では勉強会の開催や職場の問題を取り上げている。アンケート調査の実施、職場の問題を取り上げるのが国労のスタイルだと感じた。

●職場の問題を団交の要求として取り上げていたのが国労だった。東労組の役員をしていたとき、要員が足りないことを地本の役員に話したらそれが所定だと一方的に答弁された。国労の人達は、相談、飲み会、職場での指導など、その姿を見て国労加入を決意した。

○自分が望んでいることは、職場で仕事も含めて楽しくやること。国労のそれに魅力を感じた。楽しくやるという気持ちが強かった。職場の問題を機関紙に編集し宣伝する。

国労のイメージは

○国労加入者からの国労のイメージを聞きました。

- 年配者が多い
- 掲示板に機関紙、宣伝物が掲示されている
- 国労の存在を知らなかった
- 加入後、若い人もいると思った
- 国労は仕事を教えてくれると感じた
- 仕事ができる・いろいろ教えてくれる
- 主任になるまで国労に入るなど言われた。一括和解から国労加入を考えた・人間らしい人が集まっている
- 国労のイメージがどんどん良くなっている
- 国労に入ったら試験に合格した
- 付き合っていくうちに面倒を見てくれる人だと感じた・優しい、わき合い合いだ・楽しく仕事をしている・楽しいイメージになっている
- 会社は国労は仕事を教えないと言っていた
- 先輩から職場ではあいさつしろと言われた人間としてりっぱだと感じた



どう進めていくのか

○国労が見える運動・職場の問題を掲示板で知らせる。ダイ改時など問題点について他労組から話を聞くこと。現状はどうか、以前の職場の労働条件について聞くこと。その問題について機関紙で宣伝する。

●職場の要求を集約し現場で解決できることは現場長へ申し入れる。国

労との違いから国労加入につながる。

○他労組は職場の労働条件を把握していない。国労の機関紙を掲示板に掲示して内容を伝えていく。

●機関紙を発行し地本内で水平展開で各職場へ伝えていく。機関紙の活用で職場の身近な内容を宣伝し知らせている。

○毎月、職場の要員調査をしている。所定要員、公休、特休、年休の状況から会社側へ要求している。要員調査は重要、会社側と対等に向き合える。掲示板によって他労組へ知らせている。



いっぱいパワー感じた

●国労加入を訴えるときくあなたのカベは何ですか？それを解決すれば国労加入できますか？試し期間をくって国労加入を呼びかける。

二日間の分散会で、実践からの貴重な報告、意見が多く出されました。今回の交流集会は青年の参加が多く、いっぱいパワーを感じました。新潟も新しい風を吹かしたいと感じました。

編集後記

6月、新潟も入梅しました。今年は雨が少なく、降雪量も少なく水不足になっています。

新潟は信濃川や阿賀野川の二本の川が流れています。水不足の心配は無いと思います。

来月から定期大会が開催されます。7月は国労本部、8月はエリア本部そして9月は地本大会です。地本は今年も役員選の大会になります。

